

2025年9月3日

脳神経外科教室 矢木亮吉

脳神経外科領域における Cadaver Surgical Training (CST) 後の報告書

今回、3回のCSTを施行したため、以下の通り報告する。

脳神経外科領域では、手術中に脳神経や血管構造を扱うため、若手医師においては技術習得が難しく、またシミュレーションを行う環境を整えるのは困難である。CSTは、普段の手術では到達困難な領域を露出することが可能となるため、解剖学的構造を理解するには非常に有用なシミュレーション方法と考える。

今回のCSTでは、御献体がThiel法にて固定されており、皮膚および筋肉の感触は実臨床に近い状態であった。さらにThiel法では対極板を貼付することで、monopolarも使用可能であったため、筋組織の剥離も実際の手術さながらに行うことができた。また開頭や経鼻アプローチにおいても実際の手術と遜色ない工程を進めることができた。学生、若手医師は実臨床では手術中に手技に加わることが困難だが、本CSTでは実際の手術操作を体験することができ、非常に有意義であった。また上級医においても、手術では困難な侵略的操作を行うことで、今後さらに制度の高い手術手技が可能になったと考える。

今回施行した手術アプローチ

8月26日	Spine：後方除圧術、側方胸椎 approach
8月28日	Trans cavernous approach, Mastoidectomy Anterior transpetrosal approach, Trans facial approach Endoscopic trans sphenoidal approach
9月 2日	Transorbital approach, Supraorbital approach, 正常解剖 (falx, 横静脈洞、頸部動静脈) の把握

CSTは若手医師の教育、上級医師の手術精度の向上および手術合併症の低減に非常に有用であると感じた。今後も可能な限り継続していききたい。

以上